

前川 俊作 [前川 俊作賞]

岩竹 理恵 (3331 CUBE shop&gallery)

コラージュを制作の基礎に置く作家にとって、日本の都市の無秩序な広がりには正にコラージュ的に見えたのだろう。その平板な広がりや表面をカッターで削り取る”引き算”的な手法でダイナミックに見せているところに魅力を感じました。

大石 哲之 [Bigstone Collection賞]

藤幡 正樹 (NFTとアートのこれから [符号理論 /Coding Theory])

NFTのメディアとしての特徴と融和した本物のNFTアートと思い、初めてのNFTアートの購入となりました。参加型のプロジェクトゆえ、今後の展開がたいへん楽しみです。メディアアートのレジェンドの方の最新の試みに参加でき、嬉しく思います。

藤本 由紀夫 (NFTとアートのこれから [符号理論 /Coding Theory])

すでに大御所の方ではございますが、このような形でコレクションできるのは大変うれしく思います。会場での展示もすばらしく、美しい作品でした。

沢登 丈夫 [TS賞]

村上 早 (コバヤシ画廊)

中村 政人 [中村政人賞]

O JUN (Gallery KIDO Press)

中尾 豪 [美術 Academy&School賞]

中村 紗央里 (羊画廊)

今年も”部屋に飾れる”、普段の生活の一部として共に過ごす作品という目線で作品の一つ選ばせていただきました。漆黒の闇の中で一輪の花は、立体感を損ないつつその生命の輪郭線をより鮮やかに浮かび上がらせている。レントゲン写真のように透過した先には淡い体温とも思えるような色彩が躍り、いつも違う表情で見返され変容し続ける。長く続くこの状況下に、鑑賞者として「生命の力強さ」、「この先への希望」を重ね合わせた気がしました。

猪熊 敏博 [Reasons for the Beauty賞]

高木 優希 (ARTDYNE)

写真のような描写で何かノスタルジーを感じるようであり、何か気配を感じるようであり。とても繊細な作品でした。長く続くこの状況下に、鑑賞者として「生命の力強さ」、「この先への希望」を重ね合わせた気がしました。

長屋 博 [長屋博賞]

金子 未弥

小品ながら美しくまとまった感が有り、部屋に飾りたくなる作品でした。

長瀬 千雅 [長瀬千雅賞]

千葉 大二郎 (eitoeiko)

もともと作家に興味がありました。作品が撥水しているところがよかったです。

都橋 はる美 [都橋はる美賞]

柳 哲也 (TRI-FOLD OSAKA)

私は毎朝バナナを食べます。正確にいうと、冷凍したバナナと自家製ヨーグルトのシェイクが朝ごはんです。そんなわけで冷凍庫にはいつもバナナがないといけないのだけれど、キッチンには見えていないのでも買い忘れることがあります。それを防ぐために「バナナ」と書いておいてもよいのだけれど、ここにバナナの絵があったらとてもよいのではないだろうかと思っていました。これからはバナナのことを忘れずにいられそうです。

嶋津 充 (ワンピース倶楽部) [嶋津充賞]

藤本 由紀夫 (NFTとアートのこれから [符号理論 /Coding Theory])

岡本 光博 (eitoeiko)

藤谷 けい [藤谷けい賞]

藤幡 正樹 (NFTとアートのこれから [符号理論 /Coding Theory])

購入しようかどうか数日迷っていたところ、藤幡さんから「一番意味がないものに意味がある」との言葉をいただき、お勧めいただいた001番を即決しました。モノにどうしてもとらわれている私が、初めてNFTアートを購入すること自体が新しい体験でワクワクします！

藤波 克之 [FSX アート賞]

熊谷 直人 (CAVE-AYUMIGALLERY)

概念、色、素材が立体的に凝縮し、Intergrateされた構成に感銘いたしました。

馬場 兼伸 [B2A賞]

高橋 美衣 (DMOARTS)

浮遊する粒子が集まったようなオブジェクトが魅力的でした。

岩竹 理恵 (3331 CUBE shop&gallery)

意味のある形や風景と色の断片の間を認識がたよう感覚がこちこち良かったです。

吉岡 基子

重層する出来事と無関係に切り取られる個の混在にいろいろ考えさせられました。

白石 小百合 [白石小百合賞]

竹岡 健輔 (ファースト・パトロネージュ・プログラム)

箱田 さおり [EU・ジャパンフェスト賞]

久野 志乃 (ギャラリー門馬)

美しい色彩にまず目を惹かれ、見つめていくうちに、暗く豊かな森の中に潜む何かの物語に吸い込まれていくような奥深さを感じました。会場内の作品を全て拝見した後でも、久野さんの作品から感じた静謐で強い印象が心に残り、今回セレクトさせていただきましました。益々のご活躍をお祈りしております。

彦根 延代 [彦根 延代賞]

中丸 彩希

「ざくっ。ギシギシ。ぐりぐり。パチン。」生まれてから現在までの時間を、人間が1年に伸びる髪の毛の長さに変換し、艶やかで滑らかな絹糸で模した美しい三つ編みに、切れ味の鈍ったハサミで何度も何度も角度を変えながら切りとっていく行為に、なんとも言えない罪悪感と背徳感を覚えました。(作家は晴れやかなお顔をされてました。が。。)作家の生きてきた年数を頂く。私は7年分の彼女の時間を頂きました。「アートを所有すること」という概念を、直接的な方法で表した中丸さんの勇氣に敬意を表し、この度プライズに選ばせていただきました。これから中丸さんがどんな作品を制作されていくか楽しみです。